

大学における障害学生受け入れの現状 ～2017調査より受験編～

殿岡 翼

・全国障害学生支援センターでは2017年1月から2018年6月まで「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2017」を実施しました。以下、本調査または2017調査と略します。今回は本調査結果より、障害学生の在籍状況・受験状況を中心に掲載します。

・直近3回の調査実施状況です。

略称	正式名称	開始日	終了日	掲載書籍
2019調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2019	2019年5月	2019年9月	現在制作中
2017調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2017	2017年1月	2018年6月	大学案内2019障害者版
2013調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2013	2012年10月	2012年12月	大学案内2014障害者版

1 調査回答状況について

・6年ぶりとなる2017調査の結果、調査対象大学 792 校（大学 782 校・大学校 10 校）に対し、回答数は 247 校でした。過去10 回実施してきた調査の中で過去最低の回答数となりました。回答率は 31% でした。2013調査から調査時期が空いたこと、2017調査の回答システムの構築が遅れたことが主な原因と考えられます。ここ数年かけて当センターでは、毎年の調査実施に向けて体制の整備に取り組んできました。新たに本調査を出発点として、連続調査に向けて取り組んでいきたいと考えています。

・前回に比較して回答大学が 324校減少し、回答率も 42 ポイント減少しました。

※ポイント (pt) とは、前回と今回の率 (%) の差です。

・本調査は「大学の総意としての回答」を求めており、途中まで回答しても大学の総意（決裁）がとれず、最終的に回答に至らなかった大学もあります。このような大学や学生募集停止となった大学は、回答数には含まれておりません。

◆大学種別ごとの回答状況

- ・今回調査では全体の回答率が低い中、大学種別ごとでは公立大学の回答率ももっとも高くなりました。
- ・一方、私立大学の回答率は大きく減りました。
- ・大学校の回答が集まらなかったのは残念でした。

種別	調査対象数	回答数	回答率%
大学①	782	247	32%
国立	86	35	41%
公立	88	44	50%
私立	602	168	28%
大学校②	10	0	0%
合計 (①+②)	792	247	31%

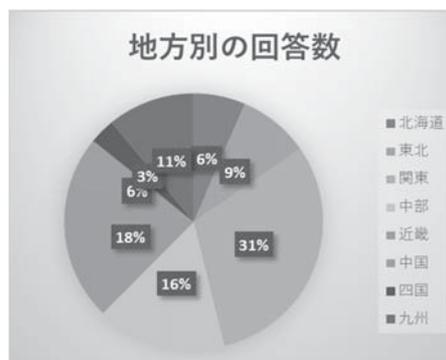
参考 前回 2013 調査：調査対象数 (779) 回答数 (571) 回答率 (73%)



◆地方別の回答状況

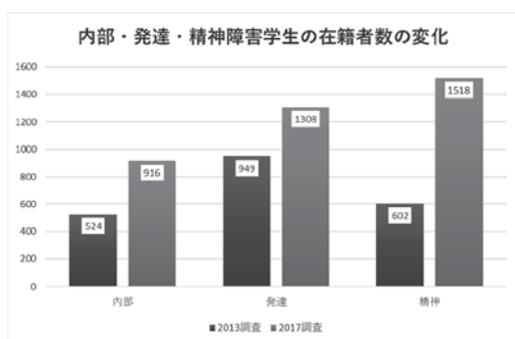
- ・地方別では、四国を筆頭に、北海道、東北から高い回答率をいただきました。
- ・関東地方・近畿地方の回答が十分集まらなかったのは残念でした。

地方	調査数	回答数	回答率%
北海道	37	16	43%
東北	51	22	43%
関東	266	76	29%
中部	126	40	32%
近畿	157	44	28%
中国	53	14	26%
四国	16	8	50%
九州沖縄	80	27	33%



2 在籍状況について

- ・発達・精神障害については今回調査から障害種別を細かく分類してデータを取るようになりました。また、盲ろうと高次脳機能障害については、在籍者数は少ないですが、当センターとして今後の大学受け入れに取り組んでいきたい障害種別として特に統計を取り始めた項目になります。



- ・本調査の特徴として、内部・発達・精神障害の在籍者数が非常に増えています。その理由としては、各大学で在籍数の把握が進んでいることと、障害学生自身が積極的に障害を告知すること双方の影響があると考えられます。
- ・また実数はまだまだ少ないですが知的障害学生の在籍数が増加しています。
- ・何らかの障害をもつ学生が在籍する一大学あたりの障害学生数が、平均29.4人であり、前回調査の14.3人よりも大幅に増えています。しかし、視覚障害についてみると、1大学あたりの平均人数を前回調査と比較すると、前回調査では視覚障害学生は4.3人であったのに対して、本調査では2.2人でした。
- ・なお『大学案内2019障害者版』では、大学別・障害種別ごとの人数の掲載を中止いたしました。これはSNS等の普及もあり、人数の公表が個人の特定につながる危険性が増したため、当センターが判断したものです。ただ、調査での人数の収集は継続しており、分析・相談等で活用しております。ご了承ください。

障害種別	大学(校)	人数(人)	平均(人)
全盲	12	24	2.0
弱視	62	130	2.1
視覚障害	67	154	2.2
全ろう	27	75	2.8
難聴	109	413	3.8
聴覚障害	117	488	4.1
盲ろう	0	0	0.0
電動車いす使用	49	104	2.1
手動車いす使用	35	56	1.6
上下肢	49	125	2.6
下肢	74	145	2.0
上肢	37	55	1.5
肢体障害	121	485	4.0
内部	106	916	8.6
SLD	32	54	1.7
ADHD	90	305	3.4
ASD	111	701	6.3
発達障害の重複	47	114	2.4
その他の発達障害	37	134	3.6
発達障害	140	1308	11.9
高次脳機能障害	16	21	1.3
その他の精神障害	119	1497	12.6
精神障害	120	1518	12.7
知的	14	23	1.6
重複障害	41	135	3.3
その他	53	320	6.0
種別不明	9	38	4.2
合計	183	5385	29.4

3 受験可否及び受験時の配慮状況について

◆受験可否

- ・2016年4月から障害者差別解消法が施行されたことに伴い当センターでは、これまで調査を行ってきた「受験不可」の選択肢を「不当な差別的取り扱い」に該当すると考え、2017調査で廃止いたしました。
- ・障害学生の受験可否の動向は、今回、すべての障害で受験可が増え、一方可否未定が減る結果となりました。これは障害者差別解消法の影響であると考えております。
- ・ただし、障害種別によって受験可の増え方に大きな違いがあり、発達・精神・知的の受験可が伸びた一方で視覚は受験可の数が知的を下回りました。また、視覚・知的は受験可の数より、可否未定の数の方が上回る状況が依然続いています。在籍者数の減少と、受験可否の状況からみると、視覚障害については、大学での受け入れが進んでいないことが明白であり、今後の課題といえます。

障害種別	受験可否								
	可			不可			未定		
	数	率	前回比	数	率	前回比	数	率	前回比
視覚	117	47%	9pt	廃止			130	53%	▲3pt
聴覚	135	55%	9pt				112	45%	▲4pt
肢体	140	57%	8pt				107	43%	▲6pt
内部	150	60%	15pt				97	39%	▲13pt
発達	157	64%	20pt				90	36%	▲16pt
精神	133	54%	23pt				113	46%	▲15pt
知的	120	49%	20pt				126	51%	▲9pt

※▲は「マイナス」の意味

◆可否未定理由

- ・受験可否未定の大学にその理由を尋ねています。視覚・聴覚・肢体障害ともに「事前協議後に対応を検討するから」がもっとも多くなっています。差別解消法が施行されてもなお、障害学生が「事前協議」で受験できるかどうか左右されるという実態が浮き彫りになりました。

- ・可否未定理由をみると、たとえば設備や教職員側の受け入れ、試験ノウハウなど、その大学が受け入れに際して何に困っているかが見えてきます。ただし、「合格しても受け入れられない」のような、事実上受験不可といえる選択肢への回答も少ないながら残っているのは残念です。

可否未定理由 (複数回答可)	視覚障害		聴覚障害		肢体障害	
	回答数	率	回答数	率	回答数	率
事前協議後検討	125	51%	104	42%	105	43%
統一見解なし	15	6%	15	6%	11	5%
教職員側の態勢未整備	12	5%	8	3%	6	2%
試験ノウハウがない	12	5%	8	3%	6	2%
キャンパス設備の問題	11	5%	5	2%	4	2%
合格しても受け入れられない	3	1%	2	1%	1	0%
その他	7	3%	5	2%	4	2%

どこがちがう？ 事前協議と事前相談

- ・事前協議は、大学が障害学生の状況を見て、入試や入学後にどこまで配慮できるかを検討したうえで、受験可否を判断します。
- ・事前相談は、大学が受験を認めたとうえで障害学生の様子を知るとともに、どのような配慮ができるかを検討するために行われます。

事前協議は障害学生の受験を認めるかどうかが決まっていない状況で行われますが、事前相談は受験を認めた上で実施されます。同じ話し合いの場ではありますが、受験が認められているのと、認められるかどうか分からないのでは、大きな違いです。

◆受験時の条件

・受験可否と受験時の条件の関係について見てみると、視覚・聴覚・肢体障害ともに、受験可の大学の方が受験時の条件が決まっている傾向が出ています。

・受験時条件の内容を見てみると、「事前相談」「診断書の提出」「障害者手帳コピーの提出」など受験時の配慮を決定するために必要と思われるものと、「入学後の補助者 大学は関与なし」、「入学後大学で配慮なし」など、受験時の配慮内容や入学後の障害学生の活動や配慮内容等を著しく制約する選択肢に分けられます。

視覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	83	16	18	117
可否未定	22	7	101	130
合計	105	23	119	247

・視覚障害の受験時条件を見てみると、「活字に対応可」、「試験（の形式）変更なし」のように、受験時の配慮に関して厳しい条件をつける大学があります。こうした条件がある大学を受験する際には、受験時配慮の詳細と併せて注意する必要があります。

聴覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	95	20	20	135
可否未定	19	8	85	112
合計	114	28	105	247

・聴覚障害の受験時条件を見てみると、「誓約書の提出」といった厳しい選択肢に回答する大学があります。本来入学後の情報保障を行うべき大学から、このような条件を出されることは、聴覚障害学生にとっては辛いことです。

肢体障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	91	25	24	140
可否未定	25	3	79	107
合計	116	28	103	247

・肢体障害の受験時条件については「入試時自分で身辺処理」、「入学後は自分で身辺処理」といった厳しい条件に回答する大学があります。通学や学内での生活、授業でのノートイクなど、とくに人的支援が必要な場合には、こうした条件のある大学では配慮や授業での支援の詳細について注意する必要があります。

・このように受験可の大学であってもこれらの厳しい条件のつけられた大学を受験する場合は、十分な注意が必要です。事前相談で自分に必要な支援についてきちんと大学に伝えることが大切です。

視覚障害 受験時の条件	受験可	可否未定	合計	視覚障害 受験時の条件	受験可	可否未定	合計
事前相談	81	21	102	通常活字に対応可	3	2	5
診断書の提出	53	5	58	入学後の補助者 大学は関与なし	4	0	4
障害者手帳コピーの提出	33	1	34	大学は事故責任なし	2	0	2
活字に対応可	11	2	13	入学後大学で配慮なし	1	0	1
入試時自分で歩行	9	1	10	誓約書の提出	0	0	0
新設備設置・購入なし	8	2	10	健康診断受診	0	0	0
試験変更なし	6	3	9	解答不可能な問題の減点	0	0	0
入学後は自力通学	5	2	7	その他	9	3	12

聴覚障害 受験時の条件	受験可	可否未定	合計	聴覚障害 受験時の条件	受験可	可否未定	合計
事前相談	92	19	111	誓約書の提出	0	1	1
診断書の提出	56	7	63	大学は事故責任なし	1	0	1
障害者手帳コピーの提出	36	3	39	入学後大学で配慮なし	1	0	1
試験変更なし	12	1	13	健康診断受診	0	0	0
新設備設置・購入なし	9	2	11	解答不可能な問題の減点	0	0	0
入学後の補助者 大学は関与なし	3	0	3	その他	11	3	14

肢体障害 受験時の条件	受験可	可否未定	合計	肢体障害 受験時の条件	受験可	可否未定	合計
事前相談	90	25	115	入学後の補助者 大学は関与なし	5	1	6
診断書の提出	57	10	67	大学は事故責任なし	2	0	2
障害者手帳コピーの提出	37	6	43	誓約書の提出	0	1	1
入試時自分で身辺処理	16	2	18	入学後大学で配慮なし	1	0	1
入学後は自分で身辺処理	10	3	13	健康診断受診	0	0	0
新設備設置・購入なし	9	4	13	解答不可能な問題の減点	0	0	0
試験変更なし	8	3	11	その他	9	4	13

◆受験時の配慮

- ・受験時に配慮すると答えた大学の率は79%～86%で、視覚・聴覚・肢体障害については前回調査とほぼ変わらない傾向にあります。
- ・受験する際には、受験可否のみならず、受験時の条件・配慮などを確認することが大切です。また、受験時に実力を発揮するためにも、入学後の学生生活がスムーズに送れるためにも、大学との事前相談が重要です。

受験時の配慮	あり	率	前回比
視覚	194	79%	▲1pt
聴覚	198	80%	▲1pt
肢体	206	83%	▲1pt
内部	212	86%	5pt
発達	204	83%	9pt

- ・次に受験時条件と配慮の関係をみていきます。「受験時条件あり」で「受験時の配慮あり」の大学がもっとも多く、事前相談を通して配慮内容を決定していくことが一般的です。
- ・受験時の配慮は行うが、受験時に条件を付けない大学もあります。こうした大学には配慮実績が十分にある国立大学が含まれています。
- ・受験時の配慮を行うことは決めていても受験時の条件が未定な大学も多くあります。

視覚障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	94	19	81	194
配慮なし	11	4	38	53
合計	105	23	119	247

聴覚障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	107	23	68	198
配慮なし	7	5	37	49
合計	114	28	105	247

肢体障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	109	26	71	206
配慮なし	7	2	32	41
合計	116	28	103	247

◆受験時の配慮（障害共通）

- ・ここからは受験時の配慮の詳細についてみていきます。大学には受験生から希望があったときに対応可能な方法を、複数選択で回答いただいています。
- ・試験時間については、聴覚を含めて一定の大学が配慮を実施しています。
- ・「一般学生と同じ」という選択肢は必ずしも配慮を行わないという意味だけでなく、受験生が希望したときに一般学生と一緒に試験を受けることができるという意味を含んでいます。ただし「一般学生と同じ」のみの選択肢を選び実質的に試験時間の延長を行わない大学も一定数あります。

試験時間	視覚	聴覚	肢体
1.3倍	93	53	89
1.5倍	65	36	61
1.5倍以上	14	13	17
一般学生と同じ	92	133	119
その他	14	16	22
一般学生と同じ (時間延長なし)	56	106	71

- ・次に試験室についてみてみます。障害学生に対しては聴覚を含めて別室受験を行う大学がもっとも多くなっています。
- ・視覚の「明るすぎない試験室」、聴覚の「ループアンテナの部屋」については今後配慮が広がってほしい項目です。
- ・肢体の「1階の部屋」「洋式トイレに近接の部屋」についてはある程度普及してきました。
- ・視覚、肢体障害については試験室が一般学生と同室のみを選択する大学は少なくなってきました。

試験室	視覚	聴覚	肢体
別室	146	124	154
保健室	16	12	16
明るすぎない試験室	33		
ループアンテナの部屋		1	
1階の部屋			123
洋式トイレに近接の部屋			124
一般学生と同室	82	116	100
その他	10	9	10
一般学生と同室(同室のみ)	27	54	22

◆視覚障害学生への配慮

- ・視覚障害の出題および解答方法については、拡大文字が最も多く、点字・(マークシートの代わりに)文字による解答がこれに続きますが、拡大に比べて半数以下となっています。
- ・対面朗読による出題、代筆や口述による解答、パソコンによる出題・解答は一定数見られます。機器の活用や人的支援により、障害学生が自分に合った受験方法を選択できるように、これらの配慮の広がりが期待されます。
- ・受験時に何らかの配慮を行う大学が194校ある中、出題・解答で「一般学生と同じ(他の配慮なし)」の大学が54校と、少なくないのは残念です。

視覚障害	出題方法	回答方法
点字	45	43
拡大文字	112	109
文字による解答		33
音訳	9	
対面朗読	16	
パソコン	15	21
口述		15
代筆		23
一般学生と同じ	98	99
その他	8	14
一般学生と同じ(他の配慮なし)	54	54

◆聴覚障害学生への配慮

- ・面接試験での配慮について、筆談による面接が最も多く、手話通訳者の同席・パソコン要約者の同席がこれに続きます。情報保障者の同席を認める大学が一定数あるのは評価できますが、筆談に比べて半数以下です。
- ・受験時に何らかの配慮を行う大学で、面接試験ありが193校の中、「一般学生と同じ(他の配慮なし)」が56校に上るのは残念です。
- ・自分の受けたい試験区分に面接試験やリスニング試験がある場合は、実力を正確に評価してもらうために、希望する配慮内容をしっかり伝えていくことが大切です。

聴覚障害	面接試験
手話通訳者の同席	33
手書き要約筆記者の同席	20
パソコン要約筆記者の同席	22
筆談で面接	88
一般学生と同じ	96
その他	22
面接試験なし	5
一般学生と同じ(他の配慮なし)	56

◆肢体障害学生への配慮

- ・肢体障害の出題および解答方法については、拡大文字が最も多く、チェックによる解答・代筆による解答・パソコンによる解答と続きます。パソコンや意思伝達装置の活用、代筆者の同席等、自分に合った出題・解答方法を選択できるよう、配慮が広がることが望まれます。
- ・何らかの配慮を行う大学が206校ある中で、「一般学生と同じ(他の配慮なし)」が、出題で97校、解答で80校に上ります。他の障害でも言えることですが、特に配慮を必要としない学生のみを受け入れるという姿勢の表れであり、こうした大学が支援を必要とする学生をまずは一人でも受け入れることで、変化していくことが期待されます。

	出題方法	回答方法
チェックによる解答		43
パソコン	13	28
拡大文字	84	85
口述		15
代筆		30
一般学生と同じ	146	136
その他	10	13
一般学生と同じ(他の配慮なし)	97	80